

令和2年度第2回神奈川県公立大学法人 神奈川県立保健福祉大学評価委員会 議事録

議題1 業務実績評価書 小項目評価（案）について

事務局から資料1～5について説明した。

【質疑応答】

○鈴木委員 委員の間で意見がわかれた小項目があったが、（いくつかの小項目につき）何を達成すれば大学自身がS評価をつけられるか大学に質問したところ、定性的な項目について恣意性が入らないようにS評価をつけるのは難しいというお考えであると理解した。意見がわかれた小項目は、数値目標でSがついているが、小項目に対する大学の評価がAであるものが多いようである。数値目標をSのレベルで達成している場合に、それをどのような比重として委員会が判断するのかという議論もあろうかと思うがいかがか。

○長谷部委員長 個別ではなくて、委員会全体の中でのまとめ方ということですね。これに関しては、私の個人的な見解だが、評価委員の皆様の点数をもとにして、問題がなければ、平均点を評価委員会としての評価とすると理解している。特段Sにすべきである、あるいは、Bにしたほうがいいという強いご意見があれば、ここで議論することだと思う。基本的には事前にいただいた一人ひとりの評価を尊重して、委員会として平均点で評価することで問題はないと思う。

<小項目17>

○長谷部委員長 小項目17の図書館の利用者数に関する質問について、中期目標を再検討すべきという回答があった。国立大学の場合、中期目標・中期計画の変更は毎年のように行っている。例えば組織改編による定員変更や不動産売買があれば、中期計画の変更を独立行政法人大学改革支援・学位授与機構に提示し、了承を得る手続きとなっている。保健福祉大学においてもしかるべき理由があれば、中期目標・中期計画を途中で変更することがあっていいのではないかと思う。今回、特に令和2年度の目標に関して、9万人という目標を達成できないくらい下げているので、年度計画と中期計画の不整合をどうするのか、という意味でB評価とした。法人の中期目標・中期計画の変更の手続きがどうなっているのか聞きたい。

○大学 図書館の利用者の人数については、デジタル化が進む中であって、今の目標の水準の設定の仕方に妥当性があるのか、（昨年度の評価委員会でも）議論していただいた。そうした内容を踏まえ、年度計画は先回りする形で、実態に合った、身の丈に応じた、妥当性のある水準にした。我々が中期計画に挑んでいるのは最初のタームであり、中期目標・中期計画の変更の仕方について、若干ナーバスになっているところがある。よって、目論見としては、4年目に見込評価のタイミングが来る。6年間のタームが終わっていない中で、今までと、残りの2年間を見て、全体を見渡す見込評価がある。そのタイミングで、県・評価委員の皆様方にご相談して全体の中期計画の調和を図る段取りが望ましいのではと考えていた。しか

し、このタイミングで変更したほうがいいのであれば、皆様方のご議論を参考に、調整を図りたいと思う。

○長谷部委員長 大学における図書館のあり方はこの10年ほどで変わってきている。図書館の入館者数が適正であるのかということはしっかり考えるべきと思う。特に、本を借りて読む、そこで勉強するというだけでなく、マルチメディア学習用のDVDや、検索用のPCを置いて、学生が自由に自習する、という環境を図書館に備えることは、どこの大学でも行っている。図書館の環境整備をすることで、学生の自学自習の環境を整えると、図書館の利用者数を増やすというのは、また別の意味があるのではないかと個人的には思う。数値目標の背景にある大学側の考え方、すなわち学生の図書館利用というものをどう考え、促進していこうとしているのか、それが重要などころではないかと思っている。見直しの議論を4年目に行う予定のようだが、今の段階で、どのような形で図書館の利用者数の変更をしようとしているのか、お考えがあればお聞きしたい。

○大学 図書館のあり方について、学生が自学自習するためのフォローとしての役割がある。今回、新型コロナウイルス感染症の関係でオンライン授業をする中で、自宅でも、図書館の外でも、図書館が持っている情報等にアプローチできる形にしていくのも一つの方向だと思っている。新型コロナウイルス感染症による影響を受け、学生が利用した実態もある。その両方のアプローチを考えあわせながら、数値目標をどのように作るのか、図書館としてどう役割を果たしていくのか、考えさせていただきたい。4年目に、きちんとした見直しをご提示したい。

○長谷部委員長 では、図書館の役割を考える中で、数値目標の変更をお願いします。小項目17に関して他にご意見はありますか。

○鈴木委員 令和元年度の終わりから新型コロナウイルス感染症の問題が始まったが、課題としてその対応についてのコメントがないことが気になった。年度末のことなので、実績にほぼ影響がないということかと思ったが、実際には展開できなかった活動もあった等の説明もいただいております、特に小項目17については、令和2年3月からオンライン授業の準備に取り組んでいる等の回答をいただいている。3月の時点で重要な課題として認識していたと思うので、課題の欄に、新型コロナウイルス感染症への対策、検討について記載してあることが望ましかった、という趣旨のことを記載してほしい。

○大学 課題の欄に記載すべきであったとコメントをいただくことについて理解した。

○長谷部委員長 小項目17については、A評価ということによろしいでしょうか。

(異議なし)

<小項目16>

○長谷部委員 小項目16について、評価委員会としてはA評価で問題ないと思うがいかがか。昨年度も人件費の実績が予算を下回ったということでコメントがあった。資料2の大学側の回答で、引き続き人材確保に努めるとある。これに関して意見はあるか。

○**中村委員** 私がB評価をつけた。これは、前期、2億円下回ってB評価としたところ、今期も下回ったことを受け、前期の説明が今期に活かされたのかどうか。事務局からの説明や、クロスアポイントメント制度の活用もあるとのこと。それであれば（A評価でも良い）と思う。

○**大木** 意見・ご質問の趣旨を参考にしながら、項目の趣旨を活かした業務展開をしっかりと行って行きたいと思う。

○**長谷部委員長** 小項目16は、全体としてはA評価としてよろしいか。

（異議なし）

<その他>

○**長谷部委員長** その他の項目は、S評価がついているが全体ではA評価というものがほとんどである。各項目に関して意見・補足等あるか。

（なし）

長谷部委員長 では、評価委員会としては、他の項目もA評価ということで確定させていただいてよいか。

（異議なし）

事務局から資料4～5について説明した。さらに集計後の資料7について説明した。

議題2 業務実績評価書（案）について

事務局から資料8～10を説明した。

（質疑応答）

特になし

議題3 財務諸表に対する意見書について

事務局から資料11について説明した。

（質疑応答）

特になし

○**長谷部委員長** 事務局案のとおりとさせていただきます。

議題4 利益処分案に対する意見書について

事務局から資料12について説明した。

(質疑応答)

特になし

○長谷部委員長 事務局案のとおりとさせていただきます。

以上